

標 題 : Effects of olives and their constituents on the expression of ulcerative colitis: a systematic review of randomized controlled trials.
潰瘍性大腸炎の発現に対するオリーブおよび構成成分の影響 :
ランダム化比較試験の系統的レビュー

著 者 : K. Daniel, et al. (オーストラリア シドニー大学
医学・健康学群 健康科学部)

掲 載 誌 : Br J Nutr. 2022 Apr 28; 127(8): 1153-1171.

要 旨 :

エクストラバージンオリーブ油は抗炎症および抗酸化の特性和関連することが多い。
潰瘍性大腸炎(UC)などの炎症性疾患に対するその影響は、しかしまだ明確にな
っていない。

それ故に、潰瘍性大腸炎の分野の中でオリーブに基づく介入を調べた研究の
系統的レビューおよびメタ解析を実施することを、我々は目的とした。

ランダム化比較試験に関する広範囲なデータベース調査を、2018年7月9日
と2018年8月16日の間に実施した。

2020年6月22日までに、検索アラートから確認した研究を入れた。

いかなる病期の潰瘍性大腸炎を抱えて生きる人々、および潰瘍性大腸炎のマウ
スモデルの両方をこのレビューに入れた。

適格基準に合うヒトの試験は確認されなかったが、潰瘍性大腸炎の849マウス
モデルから構成される19件の動物研究をこのレビューに入れた。

異質な結果のためデータのプール化を実施できなかった；しかしオリーブに基
づく介入に好都合な全体的な傾向が確認された。

オリーブに基づく介入に好都合な体重維持、直腸出血の軽減、しっかりした形
の便などの軽度疾患の発現は、16/19の研究で、中から大のエフェクトサイズで
統計的に有意であった [-0.66(95%CI-1.56,0.24)から-12.70(95%CI-16.8,
-8.7)]。

オリーブに基づく介入は、どの研究でも大腸炎のような病変を防げなかった。

結論として、潰瘍性大腸炎のマウスモデルに対するオリーブに基づく介入の影
響は有望と思われ、大部分の試験で軽度な疾患の転帰は介入に好都合でエフェク
トサイズが臨床的関連の可能性を示唆している。

しかし出版されたヒトのランダム化比較試験が無いので、潰瘍性大腸炎を抱え
て生きる人々にこれらの影響を転換できるかを確認するためには、さらに調査が
必要である。

キーワード : 炎症性大腸炎、オリーブ油、系統的レビュー、潰瘍性大腸炎
